

卒業時の学修成果可視化と教育の内部質保証

竹中 喜一(近畿大学 IR・教育支援センター 准教授)

講師略歴

専門は高等教育論および教育工学。特に大学教職員の学習と研修転移に関心を寄せている。民間企業での SE 等の業務、関西大学での事務職員および愛媛大学特任助教、講師、准教授としての FD、SD、教学 IR 等の業務を経て、2023年より現職。並行して2023年より山梨県立大学特任准教授としてカリキュラムを通した学習成果などに関する教学マネジメントアドバイザーも務める。関西大学在職中に名古屋大学大学院、大阪大学大学院を修了。博士(人間科学)。主な著書に『シリーズ大学教育の質保証2 学習成果の評価』(編著)、『大学 SD 講座4 大学職員の実力開発』(共編著)、『大学 FD 入門』(分担執筆)などがある。

プログラム概要

教育の内部質保証にあたり、各大学はアセスメントプラン(ポリシー)を定め、さまざまな方法で学修成果を評価しています。しかし、特にディプロマ・ポリシーに沿って卒業時の学修成果を可視化し評価するにあたって課題をもつ大学も少なくありません。卒業時の学修成果を可視化する方法にはどのようなものがあるのでしょうか。可視化し評価した結果を、教育の内部質保証にどのように活用しうのでしょうか。本プログラムではこれらの問いについて、卒業時の学修成果の可視化と教育の内部質保証に関する講義を通して考える機会を提供します。主に、講師が所属大学で実践する3つのポリシーの見直しや、「卒業論文ルーブリック」作成支援事例、それに加えて竹中喜一編(2023)『シリーズ大学教育の質保証2 学習成果の評価』の内容を取り扱います。

準備物・事前課題

所属組織(全学または特定の学部等)の卒業時の学修成果について、どのような方法で可視化を行っているかについて、アセスメントプラン等でご確認ください。また、当日の内容理解を進めやすくするために、竹中喜一編著(2023)『学習成果の評価』(玉川大学出版部)の1~6章を事前にご確認いただくと、当日の内容の理解が進みます。

主な受講対象者

・卒業時の学修成果の可視化と教育の内部質保証について、基礎的な内容や実践例を知りたい教務・学務系の職員や教務委員など学部等のカリキュラムに関わる教員の方を主な受講対象と想定しています。

到達目標

1. 卒業時の学修成果を可視化する目的を説明することができる。
2. 卒業時の学修成果を可視化する方法と留意点を列挙することができる。
3. 卒業時の学修成果の可視化を教育の内部質保証に活用する方法を検討することができる。